



Google Appsheetアプリ作りを続けます。この回では、自分のデータベースにアクセスする方法を復習してから、テーブル作りを始めます。テーブル作りは連載「⑤請求書作りの基礎 テーブル作り(続き3)」の回で完成した、ER図(MySQL Workbench上で作成しました)を参照しながら進めます。

[①学習塾の請求書作り](#)

[②請求書作りの基礎 スプレッドシート作り](#)

[③請求書作りの基礎 テーブル作り\(続き\)](#)

[④請求書作りの基礎 テーブル作り\(続き2\)](#)

[⑤請求書作りの基礎 テーブル作り\(続き3\)](#)

[⑥Google Appsheet開発\(1\)](#)

[⑦Google Appsheet開発\(2\)](#)(本稿)

[⑧Google Appsheet開発\(3\)](#)

[⑨Google Appsheet開発\(4\)](#)

[⑩Google Appsheet開発\(5\)スクラッチから](#)

[⑪Google Appsheet開発\(6\)テーブル群の完成まで](#)

[⑫Google Appsheet開発\(7\)アプリ生成とER図の整備](#)

[⑬Google Appsheet開発\(8\)アプリで参照関係を確認する](#)

[⑭Google Appsheet開発\(9\)参照関係\(is a part of\)作りとデータ型の整備](#)

[⑮Google Appsheet開発\(10\)バーチャルカラムと関数の設定](#)

[⑯Google Appsheet開発\(11\)ビューの整備](#)

[⑰Google Appsheet開発\(12\)請求書テンプレートを作る](#)

[⑱Google Appsheet開発\(13\)請求書発行処理をオートメーションで作る](#)

目次

データベースへのアクセス	2
「生徒」テーブルのカラム設定	5
テーブル名の設定	5
「id生徒」カラムの設定	5
「生徒氏名」カラムの設定	7
「生徒氏名」カラムをラベルに設定する	8
「保護者電話番号」カラムの設定	9
まとめ	10
参考サイト等	10

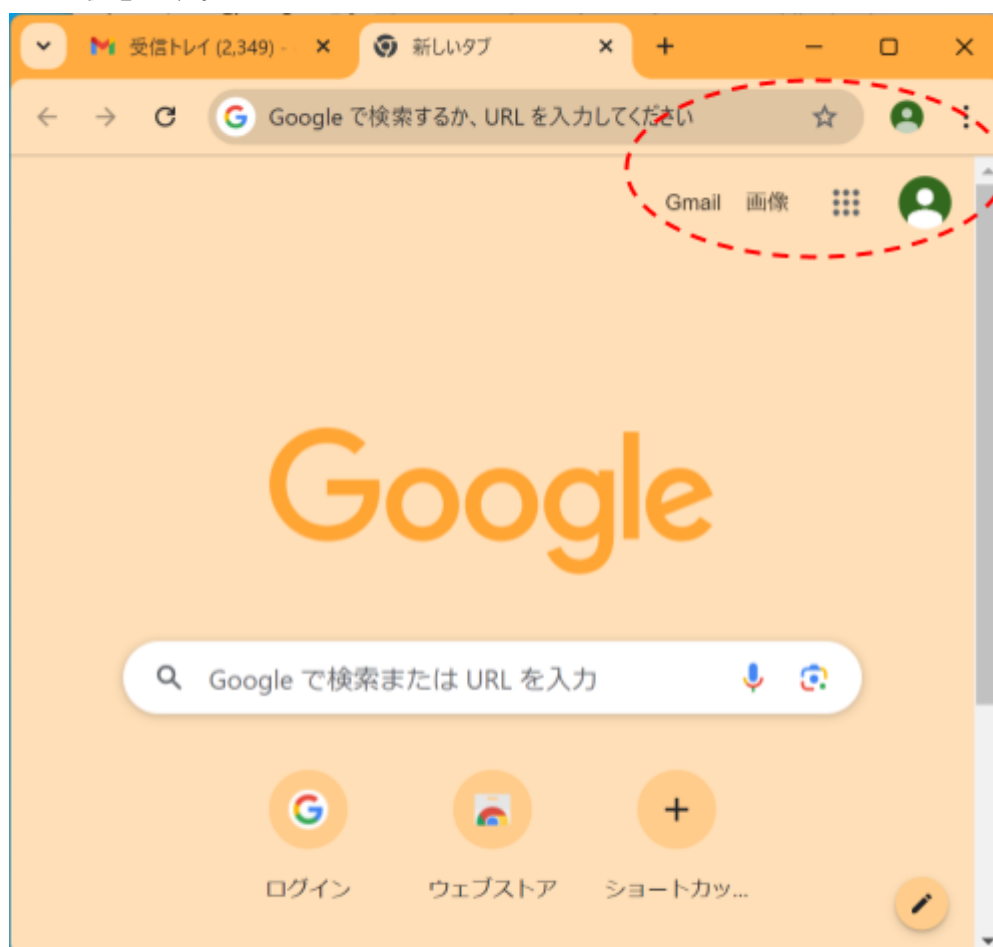
データベースへのアクセス

前回作ったデータベースにアクセスします。画面が前回のままでしたらここは読み飛ばして結構です。ログインのしかたがわからなかったら、またこの項に戻ってみてください。

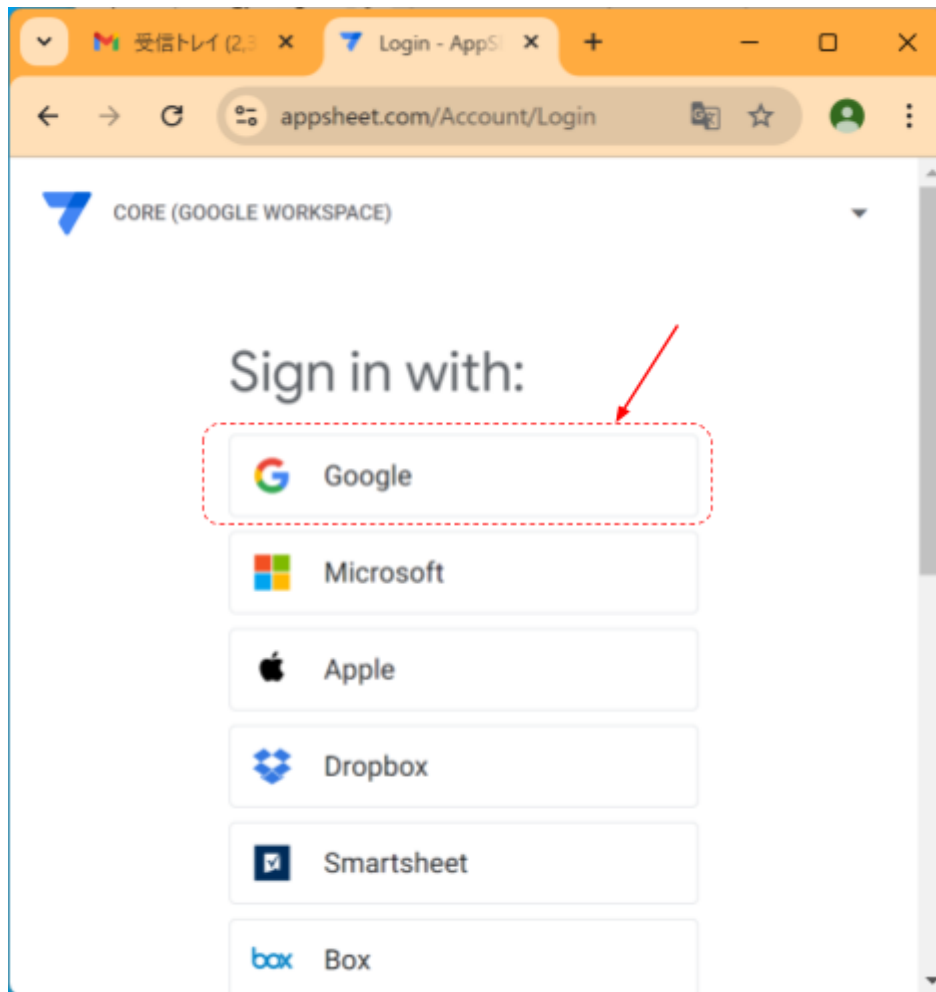
まずGoogleアカウントでログインします。Chromeでログインしてもいいですし、Gmailにログインした状態で同じChromeのウィンドウで新しいタブを追加します(下図)。右上の部分に自分のアカウントで登録



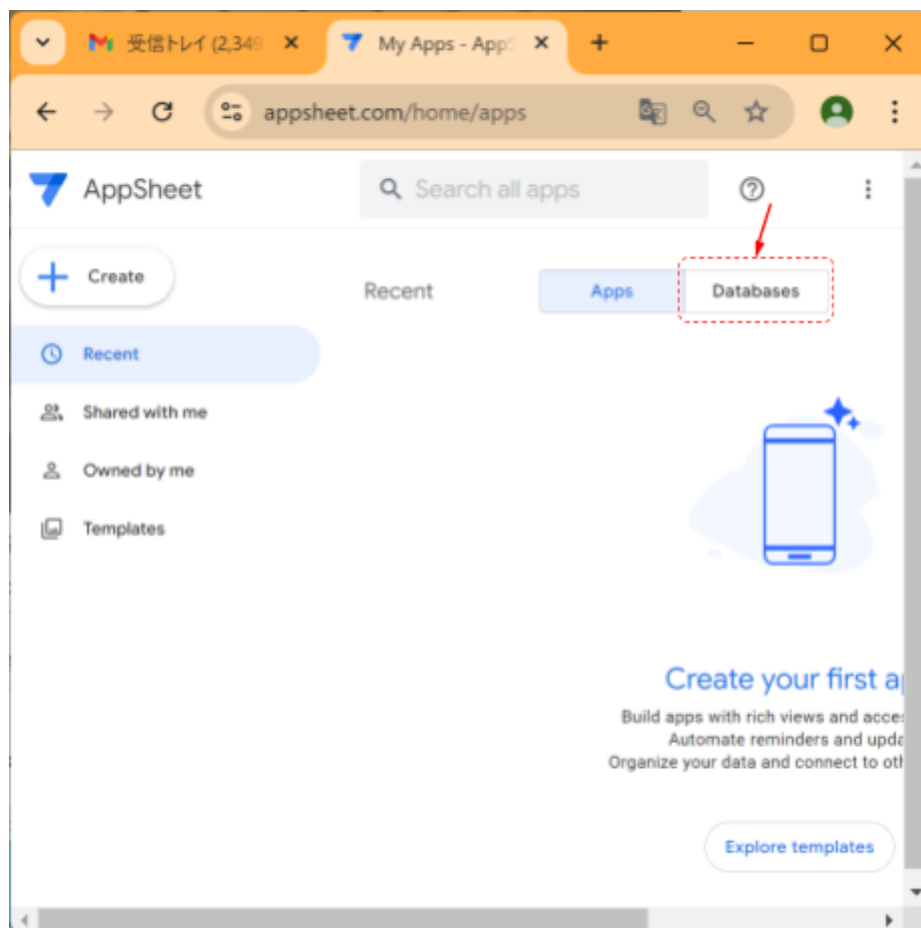
した画像(ここでは画像が未設定なのでが表示されています)が表示されていればログインした状態です。



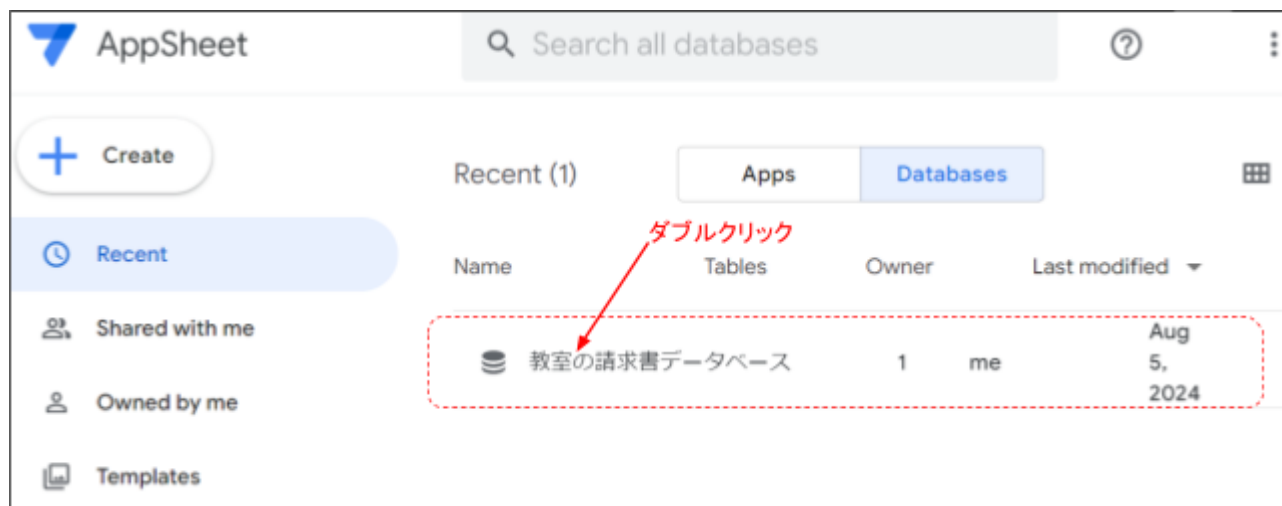
[Google appsheetのログイン画面](#)に(あるいは「Appsheet ログイン」で検索しましょう)に行きます(下図)。Sign in with: の「Google」を左クリックします。



次に表示される「アカウントの選択」画面で現在ログインしているアカウントが表示されますので、これを選択して、後に続く設定画面(前回で説明した手順ですので図示は省略します)で適切な選択をすれば、AppSheet画面(下図)が表示されます。「Databases」をクリックします。



前回作ったデータベース「教室の請求書データベース」がテーブルのリストに現れます（下図）。これをダブルクリックします。



「教室の請求書データベース」のテーブルが表示されます。まだ内容のない「生徒」テーブルが表示されているだけです（図1）。

教室の請求書データベース

生徒 + Add Table

Saved View 1 Grid Config Group Filter Sort Columns Apps

Untitled Text Untitled Dro... + Add column

1		
2		
3		
4		

+ Add row Shift-Enter

図1「教室の請求書データベース」のテーブル表示
「生徒」テーブルが表示されている

「生徒」テーブルのカラム設定

テーブル名の設定

⑤請求書作りの基礎 テーブル作り(続き3)の図11を図2に再掲します。

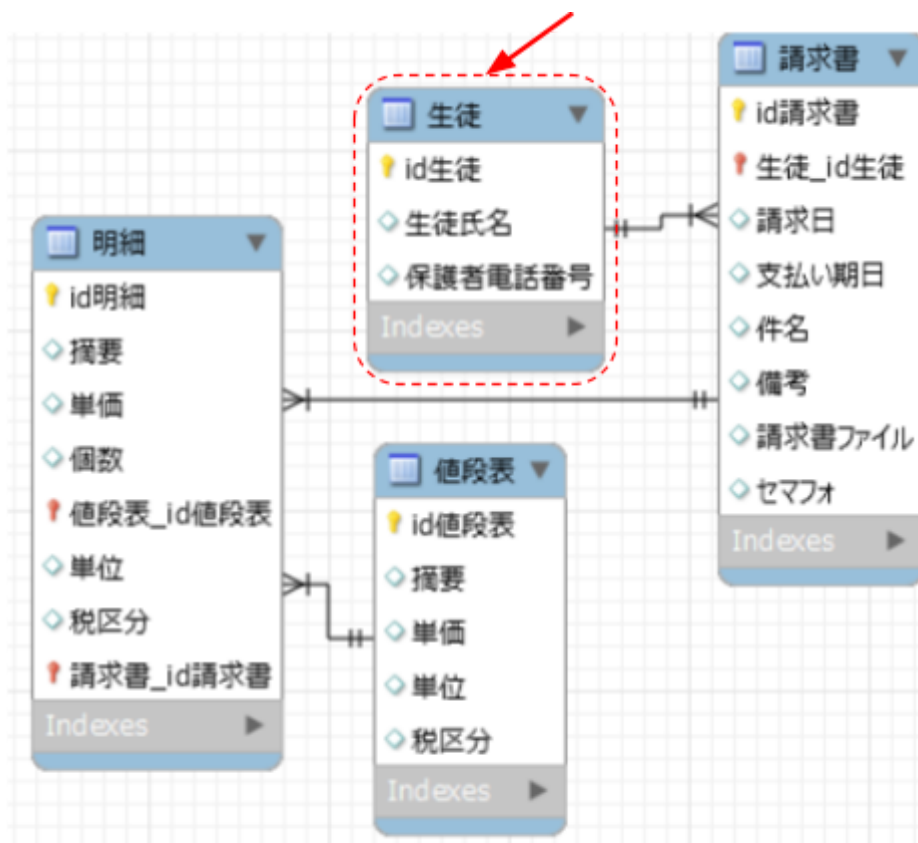


図2 ⑤請求書作りの基礎 テーブル作り(続き3)の図11の再掲

「id生徒」カラムの設定

図2の「生徒」テーブルのカラムを、Google Appsheetに作ります。作業方法は、図1のGoogle Appsheetの画面で、カラム名のなかの「Untitled Text」をダブルクリックするか①、カラム名の上でポインタをホバーさせると表示される縦団子メニューバーを左クリックして表示されるプルダウンメニューから「Edit column」を左クリックして選択します(図3)。

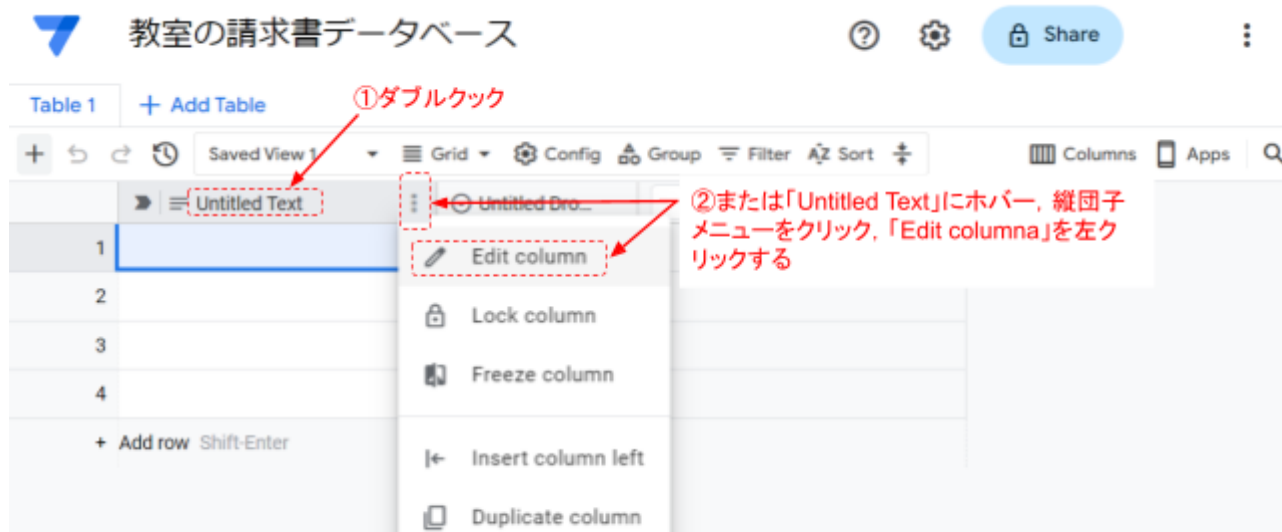


図3 カラム名の編集(1)

現れたダイアログで、「Name」欄に「id生徒」と入力します(下図①)。Type欄はあらかじめ「Text」に設定されています。これはそのまま結構です(②)。入力したら「Save」をクリックします(③)。



図3 カラム名の編集(2)

カラム名が「id生徒」に設定されました(下図①)。同図で、②の アイコン(クリックしても何も起こりませんが)は、このカラムがラベル (Label) 設定されているという表示です。ラベル設定は、このテーブルが参照されたときに代表として参照されるカラムであるという設定です。「id生徒」カラムは一意制限されたユニークな番号かテキストですので、人間が見てもあまり意味はありません。次に作る「生徒氏名」カラムをラベル設定にします。ちなみにラベル設定ができるカラムはひとつのテーブルでひとつのカラムだけです。



生徒 + Add Table

Saved View 1 Grid Config Group Filter

	id生徒	Untitled Dro...
1		
2		
3		
4		

+ Add row Shift-Enter

①カラム名が「生徒」になった

②ラベル設定の表示

「生徒氏名」カラムの設定

「生徒氏名」のカラムを作るために、「Untitled Dropdown」のカラム名をダブルクリックします(下図①)。現れる設定ダイアログ下図の右側に、初期設定の「Type」の設定が「Enum」になっていて、Dropdown形式のカラムの設定画面が表示されます。現れたダイアログの「Name」欄の値を「生徒氏名」に変更する(②、図示は変更前)。「Type」のプルダウンメニューから、「Text」を選択します。

教室の請求書データベ

生徒 + Add Table

Saved View 1 Grid Config Group Filter

	id生徒	Untitled Dro...
1		
2		
3		
4		

+ Add row Shift-Enter

①ダブルクリック

②「生徒氏名」に変更する

③プルダウンメニューで「Text」に設定する

Name
生徒氏名

Type*

Text

Phone

Price

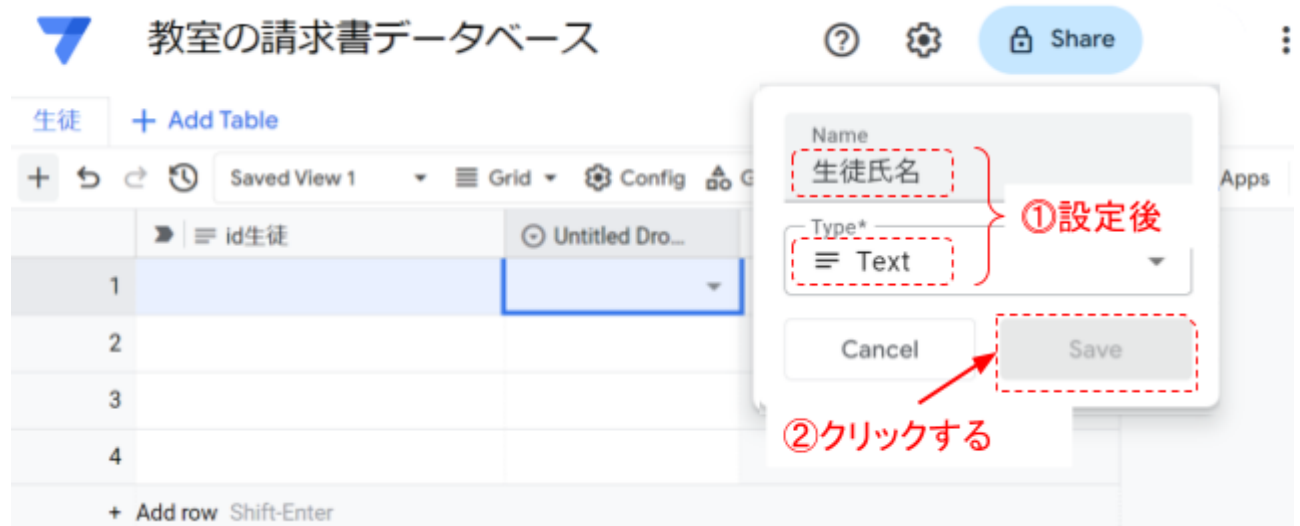
Progress

Text

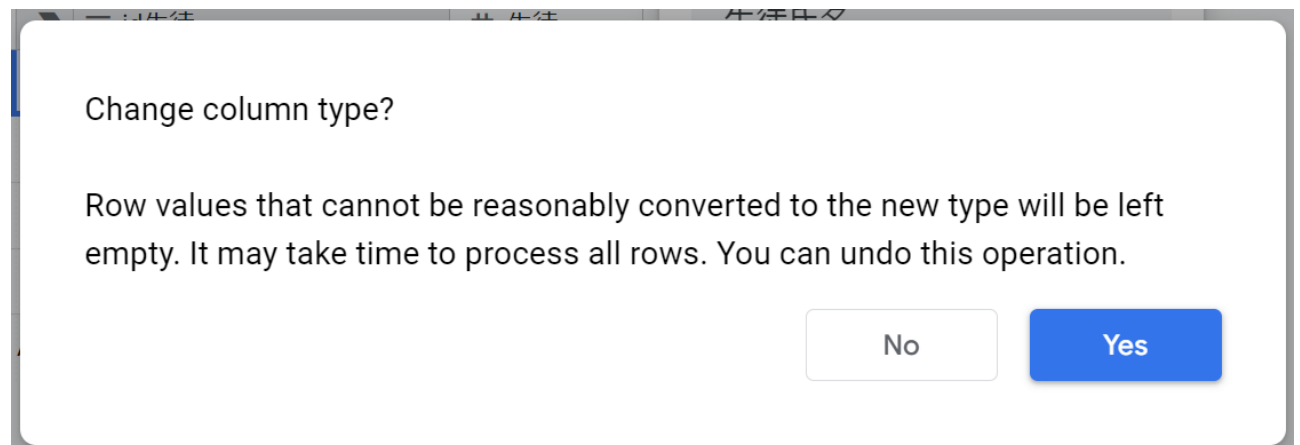
Url

Yes/No

この設定をすると、下図のように「Save」ボタンの色が反転してアクティブになりますので左クリックします。

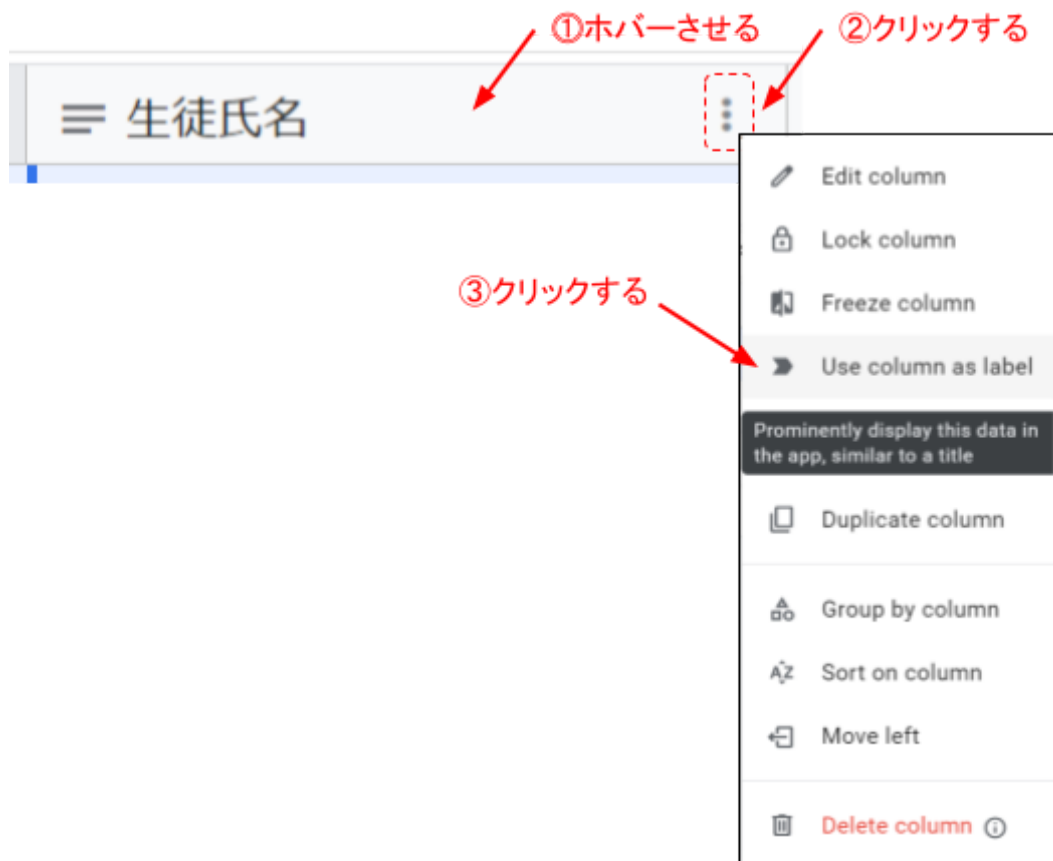


下図のように「Enumerate」タイプからテキストにうまく変更できない場合は空白になってしまうこと、若干時間がかかる、それと、この変更はもとに戻せるという警告が表示されますが、今はまだデータがありませんし、「Yes」をクリックして進みましょう。

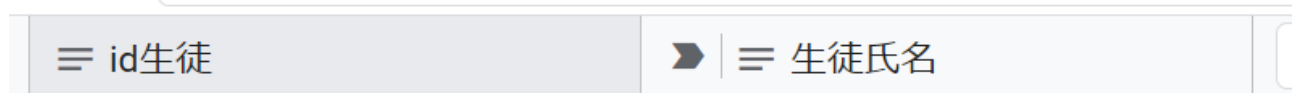


「生徒氏名」カラムをラベルに設定する

「生徒氏名」カラムはラベル設定としたいので、カラム名（下図）の上にポインタをホバーさせるとカラム名の右側に現れる縦団子メニューを左クリックします。プルダウンメニューが図のように現れますので、「Use column as table」をクリックして選択します。

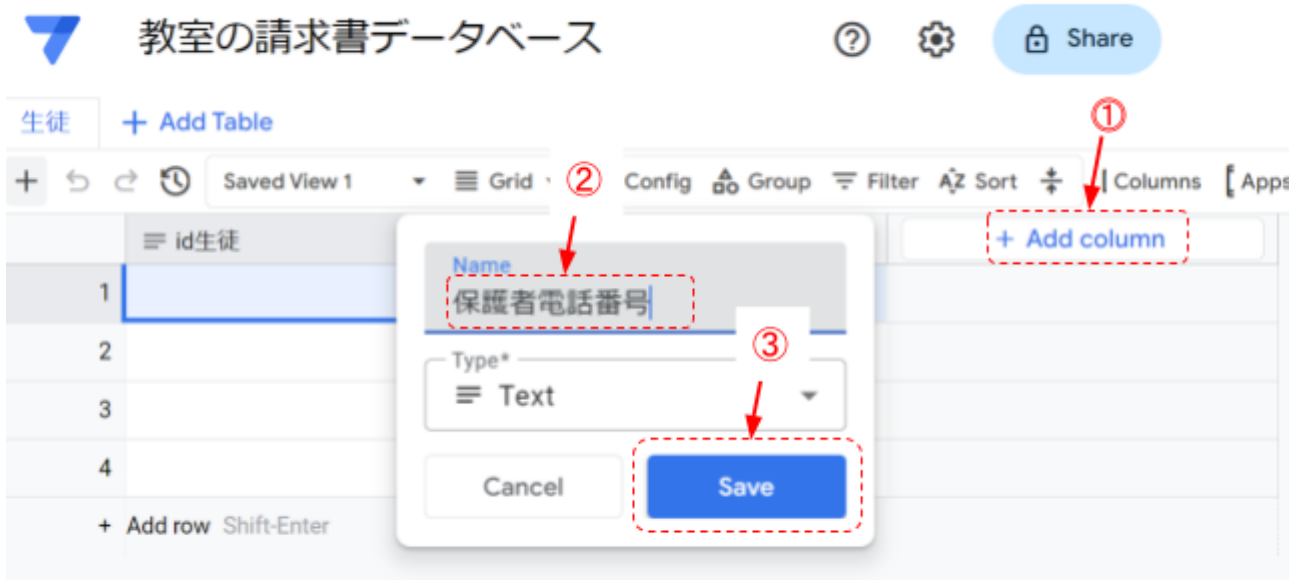


すると、下図のように「生徒氏名」カラムに  アイコンが現れて、「id生徒」カラムにはテキストであることを示す  アイコンのみが表示されます(下図)。

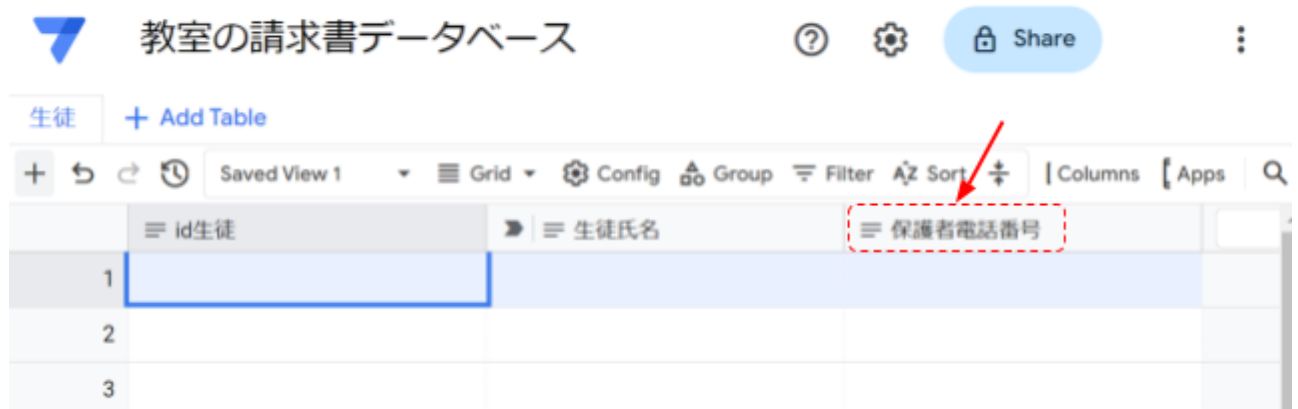


「保護者電話番号」カラムの設定

前項と同じ画面で、下図のように「+ Add column」をクリック(①)し、現れる設定ダイアログで「Name」に「保護者電話番号」と設定し(②), 「Save」アイコンをクリックします(③)。



「保護者電話番号」カラムが追加されました(下図)。



カラムを追加するには、カラム名にある「+ Add column」をクリックして設定をするという手順になります。カラム設定を修正するにはカラム名をダブルクリックして始められます。

まとめ

今回は「生徒」テーブルをGoogle Appsheetのデータベースとして作りました。まだこのテーブルしかありませんが、次回ではいったんGoogle Appsheetアプリをこのテーブルで生成してみます。

参考サイト等

(1)[Google アカウントヘルプ:「テーブル内の列を管理する」](#)

(3)[Google アカウントヘルプ: アプリでデータベースを使用する](#)

